

東京高専は、令和9年度から新しくなります。

未来をカタチにする学び



近年、デジタル化とAIの急速な進展により、社会は大きな変革期を迎えています。

仮想(サイバー)空間は人々が知覚し活用できる領域を拡大し続ける一方で、現実(フィジカル)空間においても、さまざまなモノに組み込まれたAIが人と協調し、多様なサービスや価値を生み出す時代が到来しています。さらに、これらの技術は今後も極めて速い速度で進化していくことが予想されます。

東京高専では、これまで培ってきた教育・研究の“強み”を活かしながら、こうした未来を見据え、令和9年度入学生から、学科「総合工学科」(定員200名)、専攻科「総合工学専攻」(定員25名)へ改組します。

総合工学科(5コース)

機械系、電気系、電子系、情報系、物質系

総合工学専攻(3プログラム)

機械情報システム工学、電気電子工学、物質工学

協創工学一貫教育プログラム(4学年進級時に校内選抜)

【学科・専攻科再編のポイント】

- 5学科を1学科5コースへ再編
- 3専攻を1専攻3プログラムへ再編(入学定員5名増)
- 学科・専攻科一貫教育プログラムを新設
- 教育組織と教員組織を分離

未来を見据えて“先駆ける人”を育てる

“1学科制”で分野の枠を超え、“情報”“知能”“未来”の教育を強化

- ➡ 学科の壁をなくし、社会の変化に柔軟に対応していきます。
- ➡ 学科を問わず、情報基礎、AIを含む“システム”を学ぶ科目を強化します。
- ➡ 全員が“総合工学科”に入学し、1年目に全コースを体験した上で、2年生でコースを選択します。

強みを活かして“創造力”を伸ばす

5年間切れ目ない“チャレンジ”の教育

- ➡ ものづくりの実践、社会実装教育、卒業研究を含むプロジェクト活動科目を全学年に配置。
- ➡ 異学年が混ざり合い、刺激を受け合える環境を築き、学生が主体的に“チャレンジ”する実践的教育を強化します。



“学科・専攻科一貫教育プログラム”を新設

- ➡ 4年生から専攻科までを一貫した「協創工学一貫教育プログラム」(定員20名程度)を新設し、サイバー・フィジカル両空間が統合されたシステムを見通せる“イノベーター”(先駆ける人)を養成します。

